

■ 社会福祉法人合掌苑

住宅型・介護付き有料老人ホーム
「アシステッドナーシング&リビング鶴の苑」

- 住所 〒194-0004 東京都町田市鶴間 684-1
- TEL 042-788-0544
- 定員 138人



感できる職員の育成である。法人の理念に共感できる人材を採用するために、面接や実習に時間をかけ、入職後は徹底して理念を教える。理念が形骸化することなく、現場に浸透することが重要だと考えているからだ。入職時のオリエンテーションや、毎年の誕生日研修で教育するほか、理念等を書いた携帯用の「スピリッツカード」を職員全員に配布し、毎日の朝礼

でも理念を行動に落とし込む仕組みを設けている。

第二の特徴は、コミュニケーションを重視し、縦、横、斜めなど、多様で重層的なコミュニケーションの機会を設けていることである。合掌苑では、職員のモチベーションは職場でのコミュニケーションの量に比例すると考える。たとえば、理事長の森氏は、およそ600人の職員に対し、誕生日には手書きのカードとハンカチのプレゼントを贈っている。上司と部下は毎月1回以上面談する。また、入居者やその家族から職員への「感謝の言葉」1年分を、『心の栄養』として冊子にまとめている。ほかに、職場の同僚のよいところをみつけるための「気づき」を養う「サンクスカード」の日常的な交換などがある。

さらに、働きやすい職場環境づくりとして、ワーク・ライフ・バランスの実現にも力を入れている。リフレッシュ休暇と有給休暇を合わせ、連続7日以上休暇を2年2回取得することを奨励している。正規職員は週30時間まで短時間勤務が可能で、曜日固定のロー



主菜2種を一皿に盛り付けた特別食（昼食）

テーションで半年先までの勤務表を作成している。また、21時半から翌朝7時の夜勤帯には専従職員を配置し、日勤の職員と完全に分離している。夜勤専従職員は施設勤務経験者に限定しているが、現在最も応募が多い職種だという。このようにさまざまな受け皿を用意することにより、子育て中の人にも無理なく働き続けることができるようにしている。

森氏は、介護業界における今後の最大の課題は、人材確保だという。そのためには、何らかの事情で「働けない人」を、柔軟に受け入れる多様な勤務体系を用意することが求められる。働きがいのある職場づくりを通し、「合掌苑で働きたい、働き続けたい」と思う人を増やそうとしているのだ。その結果、平成26年度的全職種離職率は5%にまで下がったという。ちなみに厚生労働省によると、施設で働く介護職員の平成25年度の平均離職率は17.7%である。

多岐にわたる取り組みが評価されたのだろう。高齢者住宅経営者連絡協議会（会長 森川悦明氏）が主催する第2回「リビング・オブ・ザ・イヤー2015」で、「鶴の苑」は優秀賞を受賞した。（シニアライフ情報センター・平岩千代子）



「グッドタイムクラブ」の体操プログラム